

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048	
法人名	社会福祉法人 鶯園	
事業所名	グループホーム 津山（南館）	
所在地	岡山県津山市小田中138-1	
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 31 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでもコロナ禍で、御家族様の面会制限があり、又、外出行事もできていませんでしたが、感染対策を徹底した上で、感染状況を確認しながら、4月はお花見ドライブ、7月には紫陽花寺、11月は紅葉狩り。一般の人との距離をあけ外出行事が出来るようになりました。11月より2ヶ月に1度の運営推進会議も開催できています。利用者様おひとりお一人の気持ちに寄り添いながら、いつも笑顔で過ごしていただけるように、出来るところは自立支援に努め、出来ないところはお手伝いさせていただき、充実した毎日になるよう職員一同でケアさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のよう 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない（今年は）
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない（今年は）	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げた理念の通り家庭的な雰囲気で安心して健康に暮らせるように、そしてご家族との良きパイプ役としての役割を果たせるように日頃のケアを行っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は、毎年近くの小学校・中学校・高校との交流やボランティアの方の訪問、地域のお祭りへの参加など努めていましたが、今年はコロナ感染症の為、交流ができませんでした		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、避難訓練に地域の方に参加して頂き、利用者様とふれあい理解を深めていただきました。福祉の勉強として北小学校6年生が認知症の訪問授業で体験していましたが、今年はコロナ禍の自粛のためできませんでした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では市役所、地域の方、ご家族様に日頃の様子をDVDで伝え、課題について話し合っています。コロナ禍で出来ない時もありましたが、感染予防に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加して頂き、ホームの様子を伝えています。情報や意見を伺い、ケアサービスの取り組みに活かしています。メールやウェブ研修などの情報を頂き研修に参加させて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の表情や行動に常に気を配り、早めに対応するようになっています。不安や困惑に対して、安心できる声かけに努めています。ウェブ研修に参加しスタッフ会議や委員会で内容を共有したり、困難事例を参考に身体拘束をしないで危険回避できるよう職員全員で話し合い取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症を正しく理解しケアに努めています。利用者一人ひとりの状況を把握し職員間で共有しストレスのない環境をめざしています。高齢者虐待防止ウェブ研修参加、研修動画を視聴しスタッフ会議や委員会で周知し意見交換するなど機会をもうけて対応しています		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価
				次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は成年後見制度の研修に参加できませんでしたが、マニュアルにて知識の向上、理解に努めるようにし、権利擁護について研修しました		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を理解、納得していただけるよう説明し、同意していただいています。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。意見箱に入れて下さる方はおられませんが、利用者やご家族との会話の中で要望を尋ね、聞いたことを職員同士で話し合い共有するようにしています		
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時やスタッフ会議に於いて、意見、提案を聞き、話し合いの上、反映させています。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の会議にて、各事業所の状況を把握し、又 随時の報・連・相にて対応されています。グループホームでは、楽しい職場づくりに努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の参加(今年度はzoom研修)、スタッフ会議の場で施設内研修や動画にて研修を行っています。職員、個々の力量を把握し、資質の向上に努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流し、情報を共有、委員会のメンバーとして一緒に取り組みをするようにしました。当GHIは介護職員のみで、他職種交流が難しいため、今後の取り組みを楽しみにしています		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握し、困っていることをお聞きしています。持ち帰り職員で情報を共有。職員一人ひとりがご本人と話す時間を作り傾聴し信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくことがご本人、ご家族にとって良いかをご家族とゆっくり話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって一番良いと思われる方法を共に考え、情報提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの尊厳を守り、活き活きと暮らせる環境作りに努め、利用者ができることを維持していくよう日頃より声かけし、行事など楽しんでいただいています。 笑顔がでるよう感謝の言葉を沿えています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係が希薄にならないように、毎年行事に参加していただいたり、誕生会を一緒に祝いしていましたが、コロナ禍では出来ていません。面会は窓越しやウェブ面会、電話でお話しして頂いています。良きパイプ役になれるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接会う事はできませんが、県外のご家族とLINE面会をして頂いたり、毎月のお便りをLINEで見て頂き、キーパーソン以外の家族との絆を大切に支援しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係で過ごせるように声かけして支援しています。悪い雰囲気を察したときは職員が間で取り持つようにしています。安心して過ごせるように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族より野菜を頂きました。近況を聞かせてもらいました。機会があるときや、必要に応じてご様子をお聞きするようにしています		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や関わりの中でご本人の思い、意向を感じ、添えるように努めています。職員間で情報を共有し支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、ご家族の面会時に話の中で聞いた内容を職員全員で共有しケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、カンファレンス、毎日の記録や、職員同士の情報交換で一人一人の状況の把握に努め支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へ近況報告し、ご本人、家族の意向を確認し、スタッフ会議でアセスメント、モニタリング情報を共有しカンファレンス後、介護計画を作成しています。必要に応じDrなどの専門家の意見も聞いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録と、バイタル、食事量、レク参加状況、入浴等の記録とプランに対しての実績、職員間のノートを活用し、介護計画の見直しや日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり違った能力の方がみんな笑顔で毎日過ごせるよう物作り、おやつ作り、行事など充実させるよう努めています。今年度はコロナ禍で外出ができない分、ホーム内での充実を頑張りました		

自己 外 部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年八幡神社のお祭りや初詣、地域のお祭り、花見や紅葉狩りなどにお出かけしていましたが、コロナ禍で中止していましたが、感染予防に気をつけてドライブや一般の方がいない所への外出を始めました		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診に来られ、健康管理していただいている。本人、家族とも安心しておられます。又、他科受診時にはGHと主治医より紹介状にてスムーズに連携出来ています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週に1回の訪問看護師来所時に、個々の状況を報告相談し、健康管理しています。利用者の思いを聴いたり、爪切り、耳のケアなどもされています。必要に応じ主治医、ご家族に連絡し早期対応に努めています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の状況を看護添書にて情報提供を行い、入院中の様子を聞き、退院時も状況把握する為連携をとっています。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時に家族の意向を聞き、入所後は必要に応じ確認し、本人が一番安心、安全で穏やかに過ごせる所を相談し、支援しています。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急救手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けていく	今年度はできませんでしたが、消防士に来ていただき緊急時対応、AED講習を受けています。スタッフ会議にて急変や事故発生時に備えての研修を行い、マニュアルをいつでも確認できる場所に置いています。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中想定で年に2回、消防設備の方の立会で避難訓練実施。地震想定の訓練にて非常食を作ったり、仮設トイレや汚物処理の対応をどうするか話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	外部評価
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時の対応にプライバシーの保護、言葉掛けにも気をつけています 利用者様にとって居心地が良く安心して暮らせるように職員で話し合うようにしています			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出したり、寄り添い過ごす事で感じるようになります。利用者様が自己決定できるような声かけに努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のリズムの中で、利用者様一人ひとりのペースに合った生活をしていただけるように希望を聞きながら支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧、身だしなみ、おしゃれについての声かけをし、誉め言葉を添えるようにしています。2ヶ月に1回 美容師に来て頂きGHでカットをして頂いています(コロナでご家族と美容院へ行けないので)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で衛生上みんなで作ることはできませんが、ご自分で食べる分のぼた餅を作つて頂いたり、個人的に関わりおやつ作りをしています。外食ができない分ホームをレストランの様にし非日常的な雰囲気で楽しんでいただきました			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた季節の献立にしています。一人ひとりにあった食事形態、量を配慮しています。水分量にも気をつけ1500cc摂取(心臓の悪い方は1200cc)して頂けるよう提供しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアが習慣になっています。できていないところは声かけ、仕上げ磨きの介助し、口腔内の清潔保持に努めています。			

自己 外 部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンにあつた声かけ誘導を行い、排尿排便状態を記録し、トイレでの排泄が継続できるよう自立支援を行っています。全員トイレ使用しています		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時に牛乳、10時のお茶にはオリゴ糖、食物繊維を使用し、1日1500cc以上の水分摂取をしていただいている。できるだけ下剤を使用しないで排便を促し便秘を予防、体操と乳製品・野菜・肉・魚のバランスを考え提供しています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂が楽しみな方が多く、入るのが面倒と言われる方も入ると「気持ち良かった」と笑顔を見せて下さいます。できない所はさりげなく介助しています。お風呂と一緒に歌を歌うなど楽しい入浴を心掛けています。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で本を読まれる方、ホールでテレビを観られる方、利用者同士で会話される方々など、自由に過ごされています。就寝前は落ち着かれる様、個々にあった対応に努めています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し服薬管理しています。処方内容を薬品カードで確認し、服薬忘れの無いよう服薬確認しています。状態の変化に応じ主治医へ報告、相談し対応しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き・洗濯干し・洗濯たたみ・チラシで箱折り・など、感謝の意を表し達成感ややりがいが持てるよう支援しています。昔話や歌、新聞、読書などで笑顔がみられます		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年できていた外出がコロナ禍の自粛で今年度はできませんでした。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの認知症の症状と、理解度の状況に合った対応を心掛け、ご本人、ご家族の希望に添えるようにしています。トラブルにならないように配慮しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取り次ぎをしたり、かけて差し上げ、笑顔でお話しされています。孫からの手紙の返事が書けるよう支援しています		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで新聞や読書をしたり、ゆっくりテレビを落ち着いてみて過ごしておられます。テレビでYouTubeの昔の歌番組を口ずさんで観ている方もおられます。季節の飾りを利用者と作ったり、壁の飾りや花を飾ることで季節感を出しています。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールでいつもの場所があり、利用者同士が和やかに会話などされています。時に居室で横になったり、読書される方もおられます。職員が絶えず気配りをして落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人、ご家族が持参された家具やお道具を置いています。ベッドや家具の配置も使いやすく安全に配慮しています。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・事務所・リビングから居室やトイレが見渡せ、わかりやすく位置しています。利用者の動きは把握でき、ホール内を自由に動かれています。		